

障がい福祉に関するアンケート調査

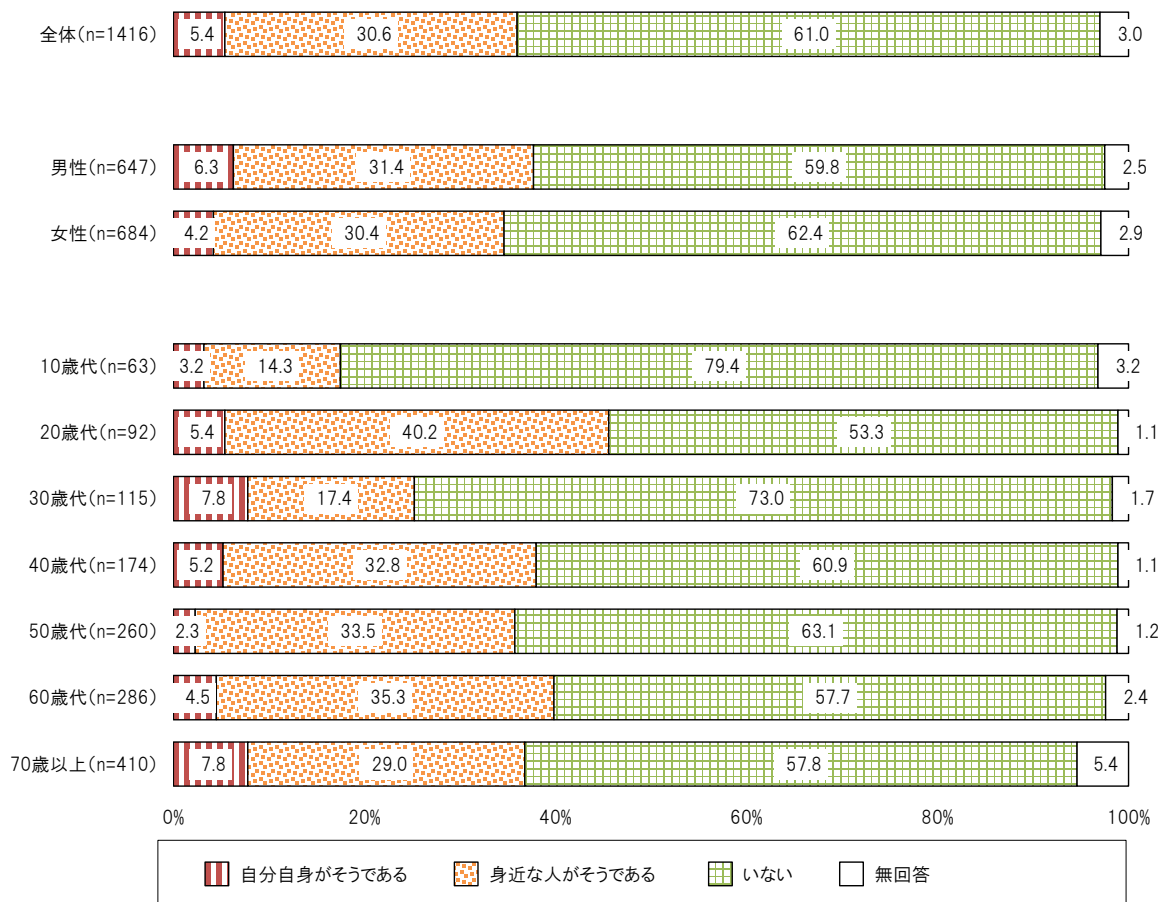
障がいのある人などに対する理解について

問 57 あなたの身近に障がいのある人はいますか。(〇は 1 つだけ)

全体では「いない」が 61.0%で最も高く、ついで「身近な人がそうである」が 30.6%、「自分自身がそうである」が 5.4%となっている。

性別にみると、男性と女性間に大きな違いはみられなかった。

年代別にみると、「自分自身がそうである」と「身近な人がそうである」の合計の割合は、20 歳代で最も高く 45.6%であり、10 歳代で最も低く 17.5%であった。同割合について、10 歳代、30 歳代で比較的少なくなっており、40 歳代以上はいずれも3割台であった。

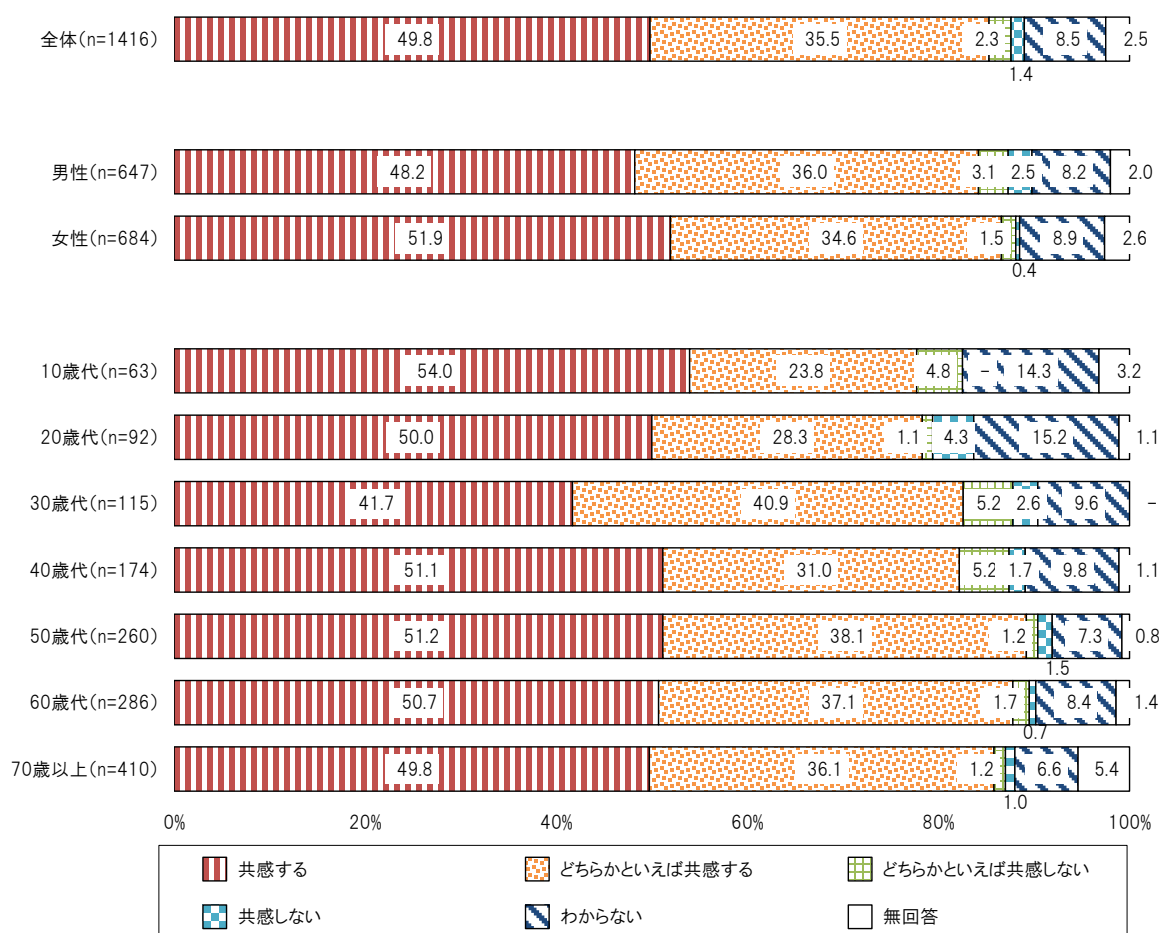


問 58 障がいのある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合
て暮らすことをめざす「共生社会」という考え方について、あなたはと思いますか。
(○は1つだけ)

全体では「共感する」が 49.8%で最も高く、ついで「どちらかといえば共感する」が 35.5%、「わ
からない」が 8.5%となっている。

性別にみると、「共感する」と「どちらかといえば共感する」の合計の割合は、男性が 84.2%、女
性が 86.5%であり、女性の方が 2.3 ポイント高くなっている。

年代別にみると、「共感する」と「どちらかといえば共感する」の合計の割合は、50 歳代で最も高
く 89.3%であり、10 歳代で最も低く 77.8%となっている。同割合について、10 歳代、20 歳代
で比較的低くなっている。

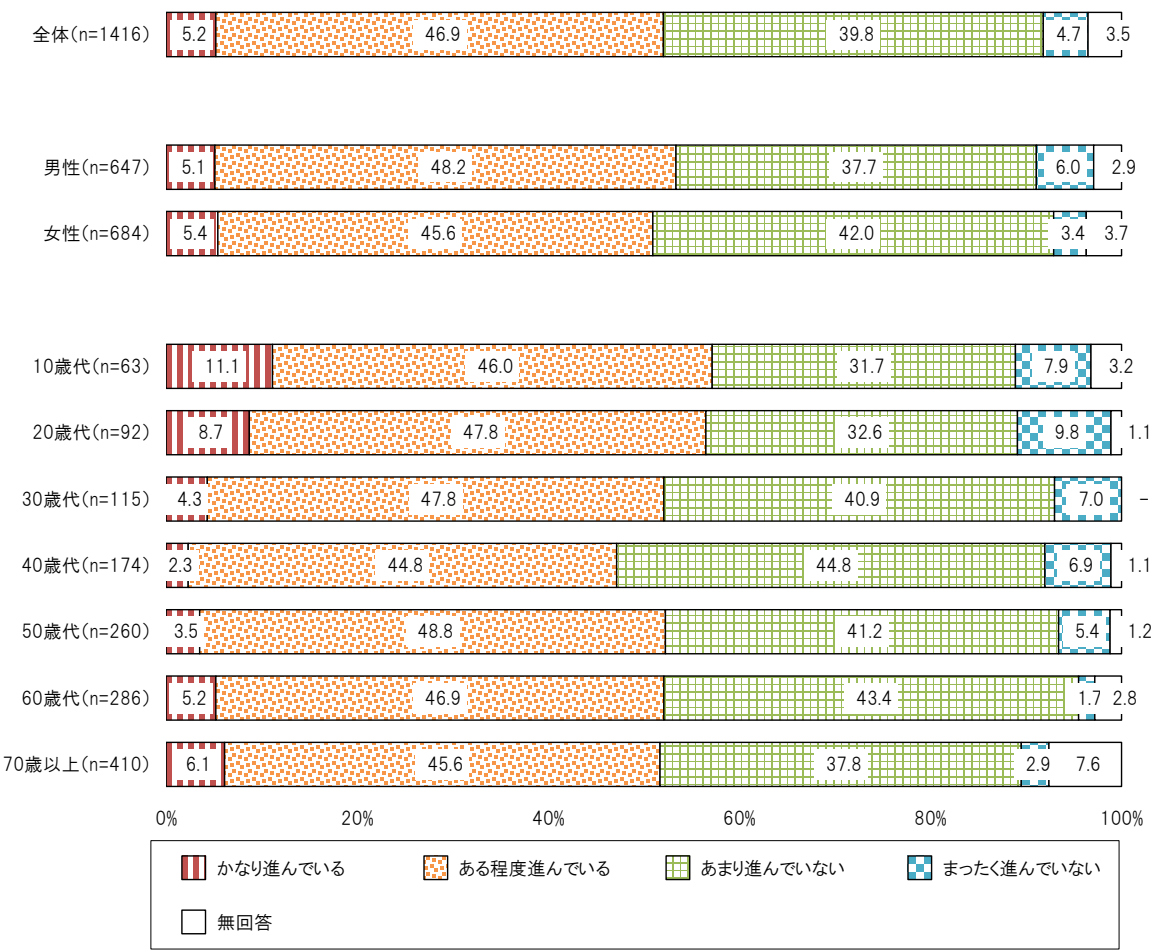


問 59 障がいのある人などに対し、人々の理解が進んでいると思いますか。(○は1つだけ)

全体では「ある程度進んでいる」が46.9%で最も高く、ついで「あまり進んでいない」が39.8%、「かなり進んでいる」が5.2%となっている。

性別にみると、「かなり進んでいる」と「ある程度進んでいる」の合計の割合は、男性が53.3%、女性が51.0%であり、男性の方が2.3ポイント高くなっている。

年代別にみると、「かなり進んでいる」と「ある程度進んでいる」の合計の割合は、10歳代で最も高く57.1%であり、40歳代で最も低く47.1%であった。同割合について、40歳代が4割台であり、それ以外の年代はいずれも5割台であった。

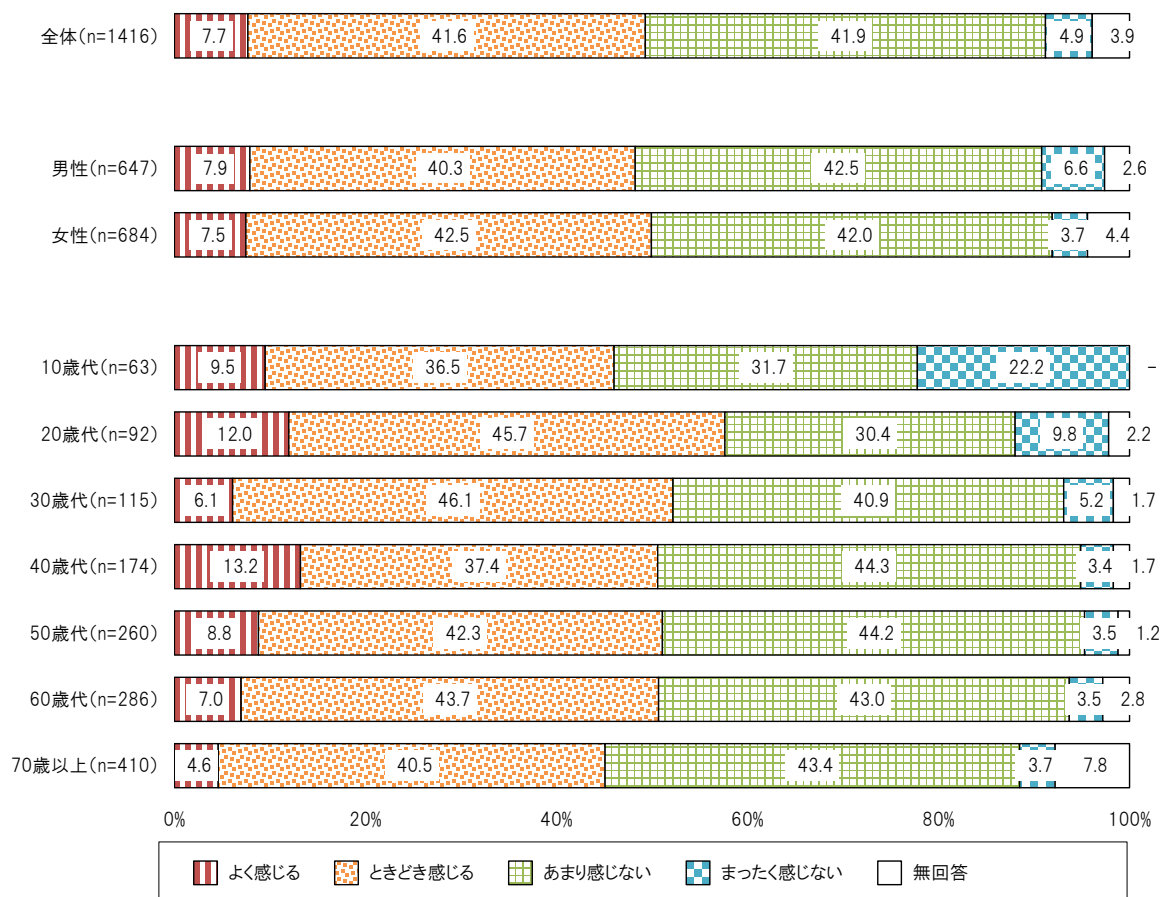


問 60 日頃の生活の中で、障がいのある人などに対する差別や偏見などを感じることはありますか。(○は 1 つだけ)

全体では「あまり感じない」が 41.9%で最も高く、ついで「ときどき感じる」が 41.6%、「よく感じる」が 7.7%となっている。

性別にみると、「よく感じる」と「ときどき感じる」の合計の割合は、男性が 48.2%、女性が 50.0%であり、女性の方が 1.8 ポイント高くなっているが、大きな違いはみられなかった。

年代別にみると、「よく感じる」と「ときどき感じる」の合計の割合は、20 歳代で最も高く 57.7%であり、70 歳以上で最も低く 45.1%であった。同割合について、10 歳代と 70 歳以上が比較的低くなっている。



問 60 で「1. よく感じる」「2. ときどき感じる」と答えた方におきします

問 61 障がいのある人などへの差別や偏見を感じるのは、どのような時ですか。(〇はいくつでも)

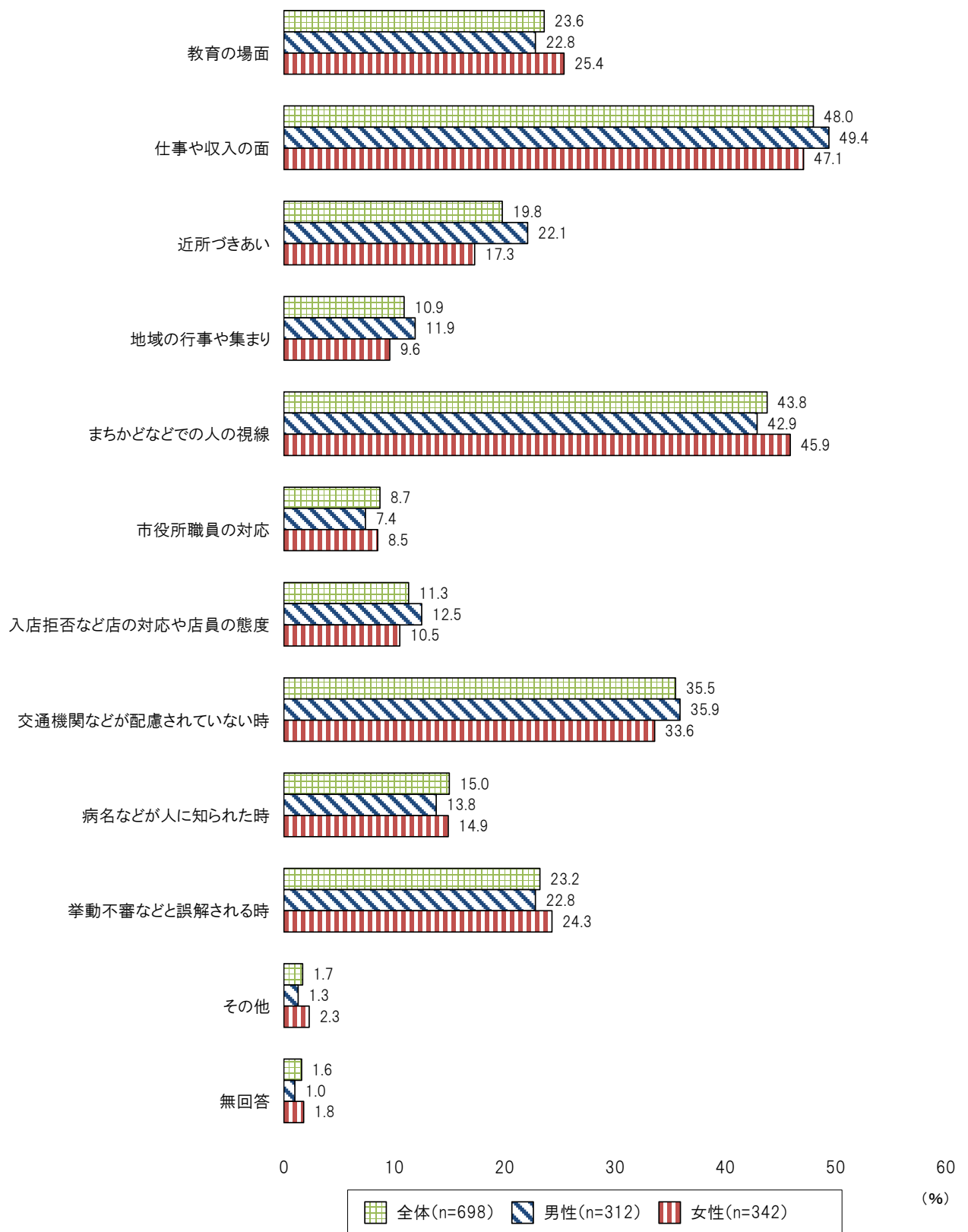
「仕事や収入の面」が 48.0%で最も高く、ついで「まちかどなどでの人の視線」が 43.8%、「交通機関などが配慮されていない時」が 35.5%となっている。

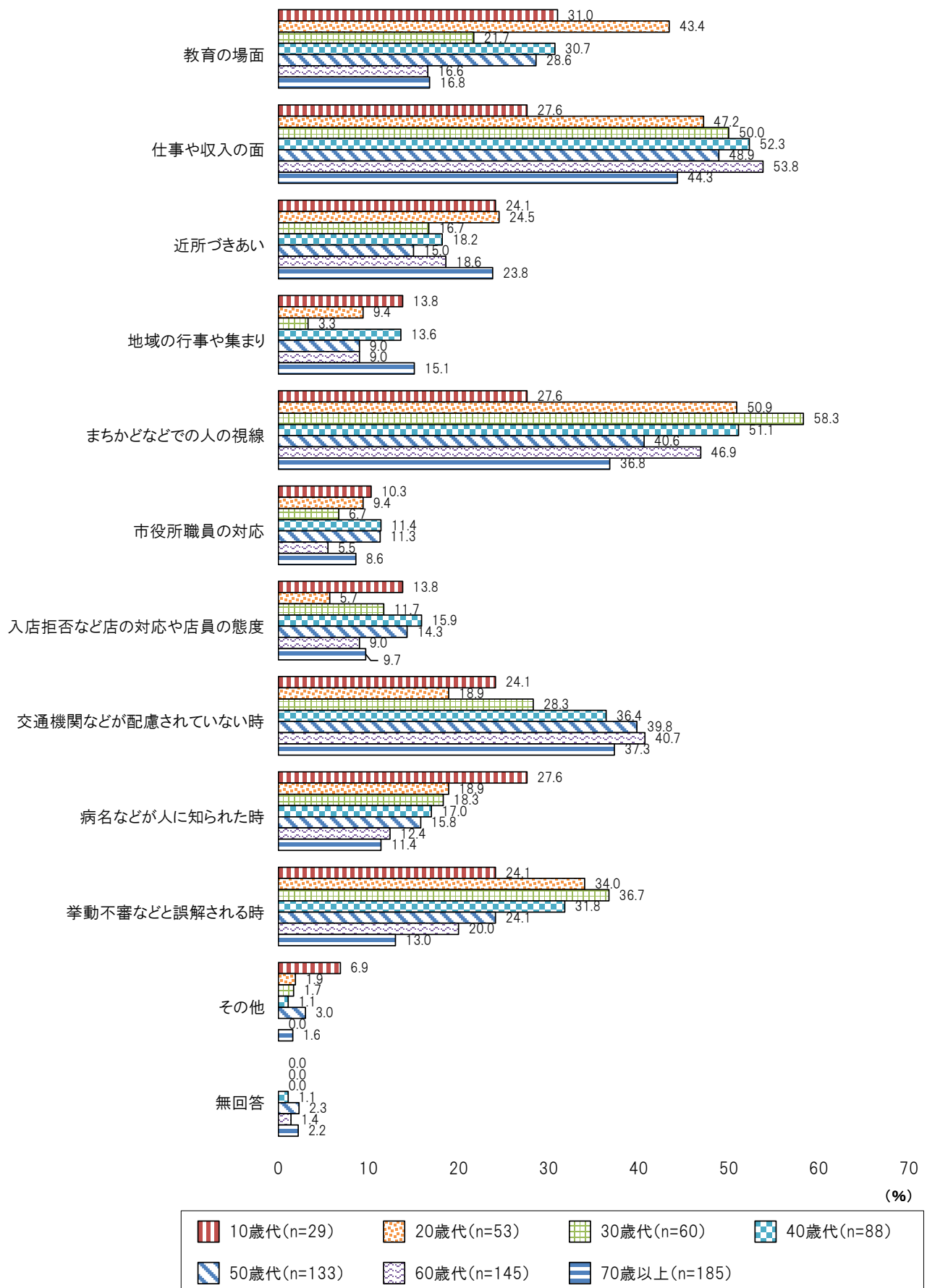
性別にみると、1番目、2番目、3番目に高い項目は男女とも全体と同じであった。

年代別にみると、1番目の項目は、40 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上は「仕事や収入の面」、20 歳代、30 歳代は「まちかどなどでの人の視線」、10 歳代は「教育の場面」となっている。全体の上位3項目以外で入ってきているのは、10 歳代、20 歳代の「教育の場面」、10 歳代の「病名などが人に知られた時」、30 歳代の「挙動不審などと誤解される時」となっている。

<上位3項目>

		1番目		2番目		3番目	
全体		仕事や収入の面	48.0%	まちかどなどでの人の視線	43.8%	交通機関などが配慮されていない時	35.5%
性別	男性	仕事や収入の面	49.4%	まちかどなどでの人の視線	42.9%	交通機関などが配慮されていない時	35.9%
	女性	仕事や収入の面	47.1%	まちかどなどでの人の視線	45.9%	交通機関などが配慮されていない時	33.6%
年代別	10 歳代	教育の場面	31.0%	仕事や収入の面	27.6%	まちかどなどでの人の視線 病名などが人に知られた時	27.6%
	20 歳代	まちかどなどでの人の視線	50.9%	仕事や収入の面	47.2%	教育の場面	43.4%
	30 歳代	まちかどなどでの人の視線	58.3%	仕事や収入の面	50.0%	挙動不審などと誤解される時	36.7%
	40 歳代	仕事や収入の面	52.3%	まちかどなどでの人の視線	51.1%	交通機関などが配慮されていない時	36.4%
	50 歳代	仕事や収入の面	48.9%	まちかどなどでの人の視線	40.6%	交通機関などが配慮されていない時	39.8%
	60 歳代	仕事や収入の面	53.8%	まちかどなどでの人の視線	46.9%	交通機関などが配慮されていない時	40.7%
	70 歳以上	仕事や収入の面	44.3%	交通機関などが配慮されていない時	37.3%	まちかどなどでの人の視線	36.8%



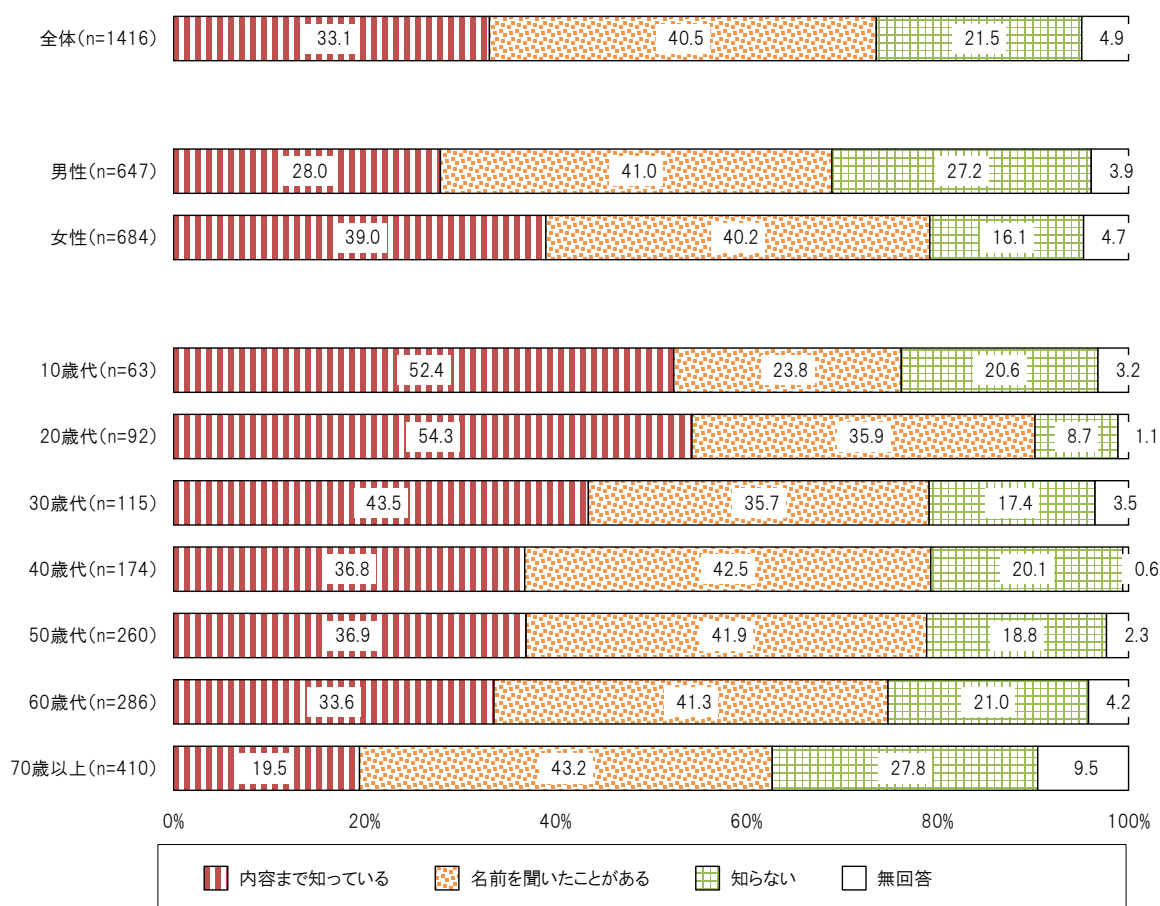


問 62 あなたは、「ヘルプマーク」を知っていますか。(○は1つだけ)

全体では「名前を聞いたことがある」が40.5%で最も高く、ついで「内容まで知っている」が33.1%、「知らない」が21.5%となっている。

性別にみると、「内容まで知っている」は男性が28.0%、女性が39.0%であり、女性の方が11.0ポイント高くなっている。

年代別にみると、「内容まで知っている」は、20歳代が最も高く54.3%であり、ついで10歳代も52.4%と高くなっている。一方、70歳以上が最も低く19.5%であった。年代が高くなるにつれて同割合は低くなる傾向がみられる。

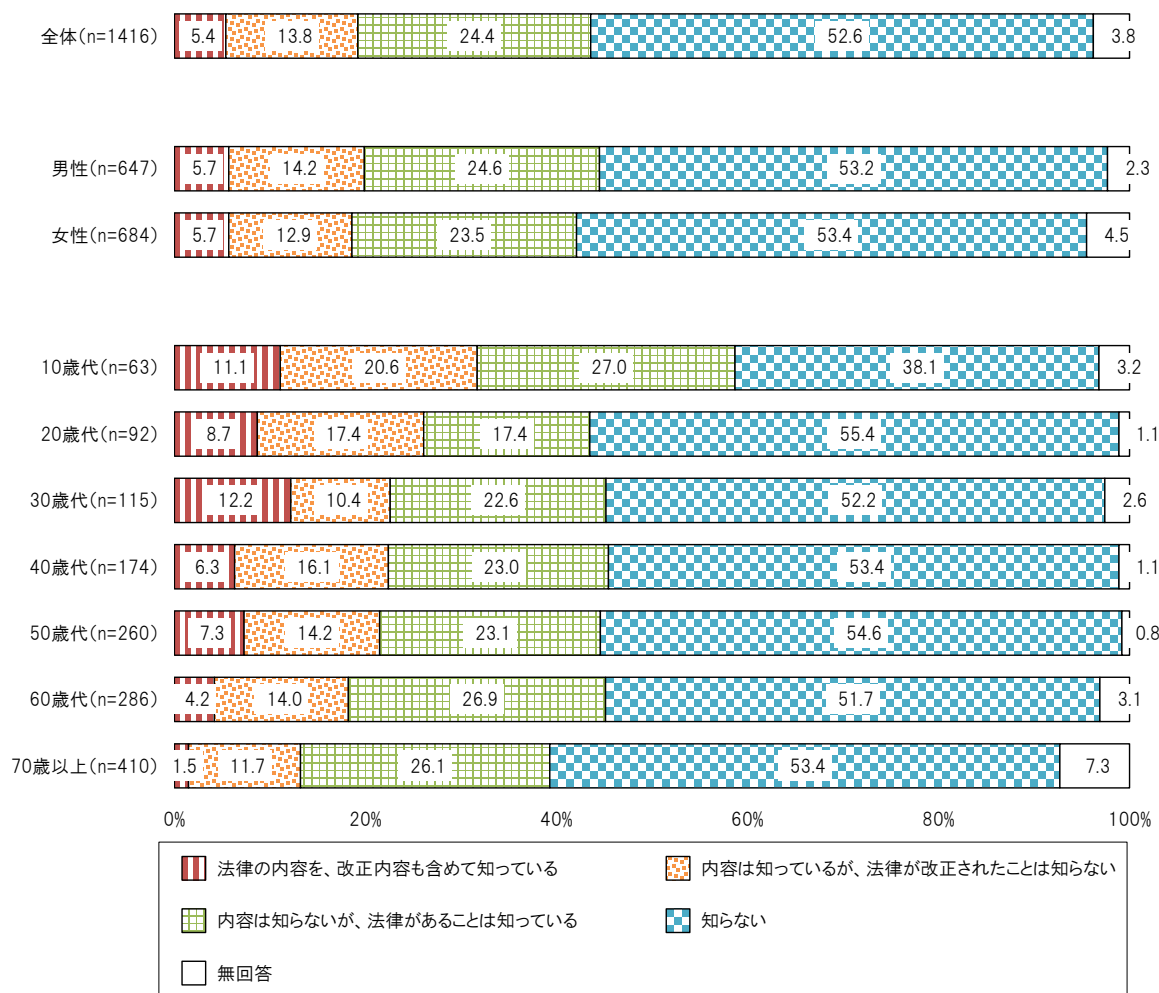


問 63 障がいのある人への差別をなくすことを目的として、平成 28 年 4 月に「障害者差別解消法」が施行され、令和 3 年 6 月には法改正が行われました（令和 6 年 4 月施行）。あなたは、「障害者差別解消法」を知っていますか。（○は 1 つだけ）

全体では「知らない」が 52.6%で最も高く、ついで「内容は知らないが、法律があることは知っている」が 24.4%、「内容は知っているが、法律が改正されたことは知らない」が 13.8%となっている。

性別にみると、男性と女性の間で大きな違いはみられなかった。

年代別にみると、「法律の内容を、改正内容も含めて知っている」と「内容は知っているが、法律が改正されたことは知らない」の合計の割合は、10 歳代が最も高く 31.7%であり、70 歳以上が最も低く 13.2%となっている。年代が高くなるにつれて同割合は低くなる傾向がみられる。



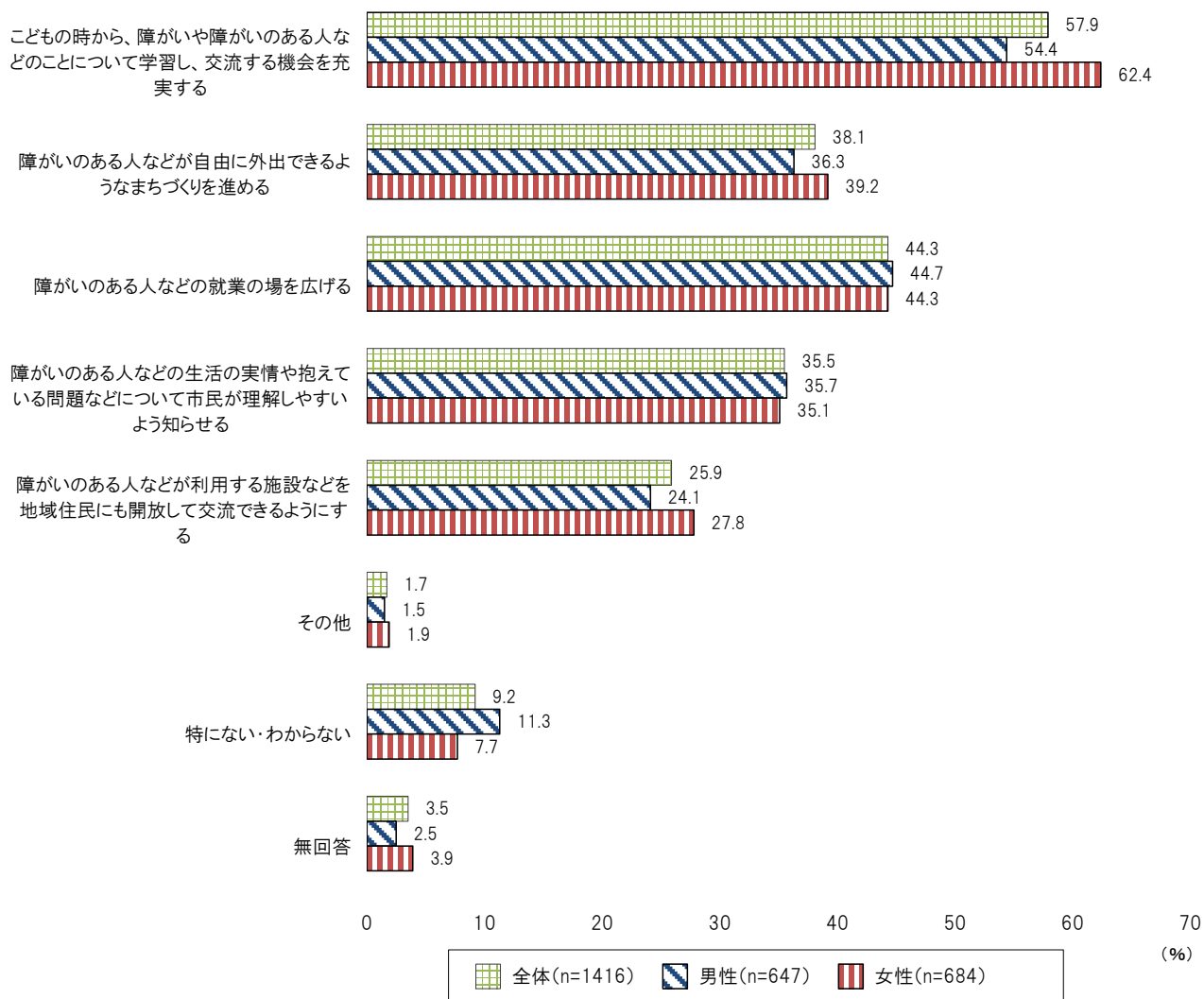
問 64 障がいのある人などに対する理解を深めるためには何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「こどもの時から、障がいや障がいのある人などのことについて学習し、交流する機会を充実する」が 57.9%で最も高く、ついで「障がいのある人などの就業の場を広げる」が 44.3%、「障がいのある人などが自由に外出できるようなまちづくりを進める」が 38.1%となっている。

性別にみると、1 番目、2 番目の項目はいずれの年代も同じであった。3 番目の項目は 10 歳代、20 歳代、30 歳代、40 歳代が「障がいのある人などの生活の実情や抱えている問題などについて市民が理解しやすいよう知らせる」、50 歳代、60 歳代、70 歳以上は「障がいのある人などが自由に外出できるようなまちづくりを進める」であった。

<上位3項目>

		1 番目		2 番目		3 番目	
全体		こどもの時から、障がいや障がいのある人などのことについて学習し、交流する機会を充実する	57.9%	障がいのある人などの就業の場を広げる	44.3%	障がいのある人などが自由に外出できるようなまちづくりを進める	38.1%
性別	男性	こどもの時から、障がいや障がいのある人などのことについて学習し、交流する機会を充実する	54.4%	障がいのある人などの就業の場を広げる	44.7%	障がいのある人などが自由に外出できるようなまちづくりを進める	36.3%
	女性	こどもの時から、障がいや障がいのある人などのことについて学習し、交流する機会を充実する	62.4%	障がいのある人などの就業の場を広げる	44.3%	障がいのある人などが自由に外出できるようなまちづくりを進める	39.2%
年代別	10 歳代	こどもの時から、障がいや障がいのある人などのことについて学習し、交流する機会を充実する	46.0%	障がいのある人などの就業の場を広げる	33.3%	障がいのある人などの生活の実情や抱えている問題などについて市民が理解しやすいよう知らせる	31.7%
	20 歳代	こどもの時から、障がいや障がいのある人などのことについて学習し、交流する機会を充実する	55.4%	障がいのある人などの就業の場を広げる	42.4%	障がいのある人などの生活の実情や抱えている問題などについて市民が理解しやすいよう知らせる	34.8%
	30 歳代	こどもの時から、障がいや障がいのある人などのことについて学習し、交流する機会を充実する	60.9%	障がいのある人などの就業の場を広げる	35.7%	障がいのある人などの生活の実情や抱えている問題などについて市民が理解しやすいよう知らせる	33.9%
	40 歳代	こどもの時から、障がいや障がいのある人などのことについて学習し、交流する機会を充実する	64.9%	障がいのある人などの就業の場を広げる	47.7%	障がいのある人などの生活の実情や抱えている問題などについて市民が理解しやすいよう知らせる	40.2%
	50 歳代	こどもの時から、障がいや障がいのある人などのことについて学習し、交流する機会を充実する	59.6%	障がいのある人などの就業の場を広げる	44.2%	障がいのある人などが自由に外出できるようなまちづくりを進める	40.8%
	60 歳代	こどもの時から、障がいや障がいのある人などのことについて学習し、交流する機会を充実する	64.3%	障がいのある人などの就業の場を広げる	49.3%	障がいのある人などが自由に外出できるようなまちづくりを進める	46.2%
	70 歳以上	こどもの時から、障がいや障がいのある人などのことについて学習し、交流する機会を充実する	51.2%	障がいのある人などの就業の場を広げる	43.9%	障がいのある人などが自由に外出できるようなまちづくりを進める	39.5%



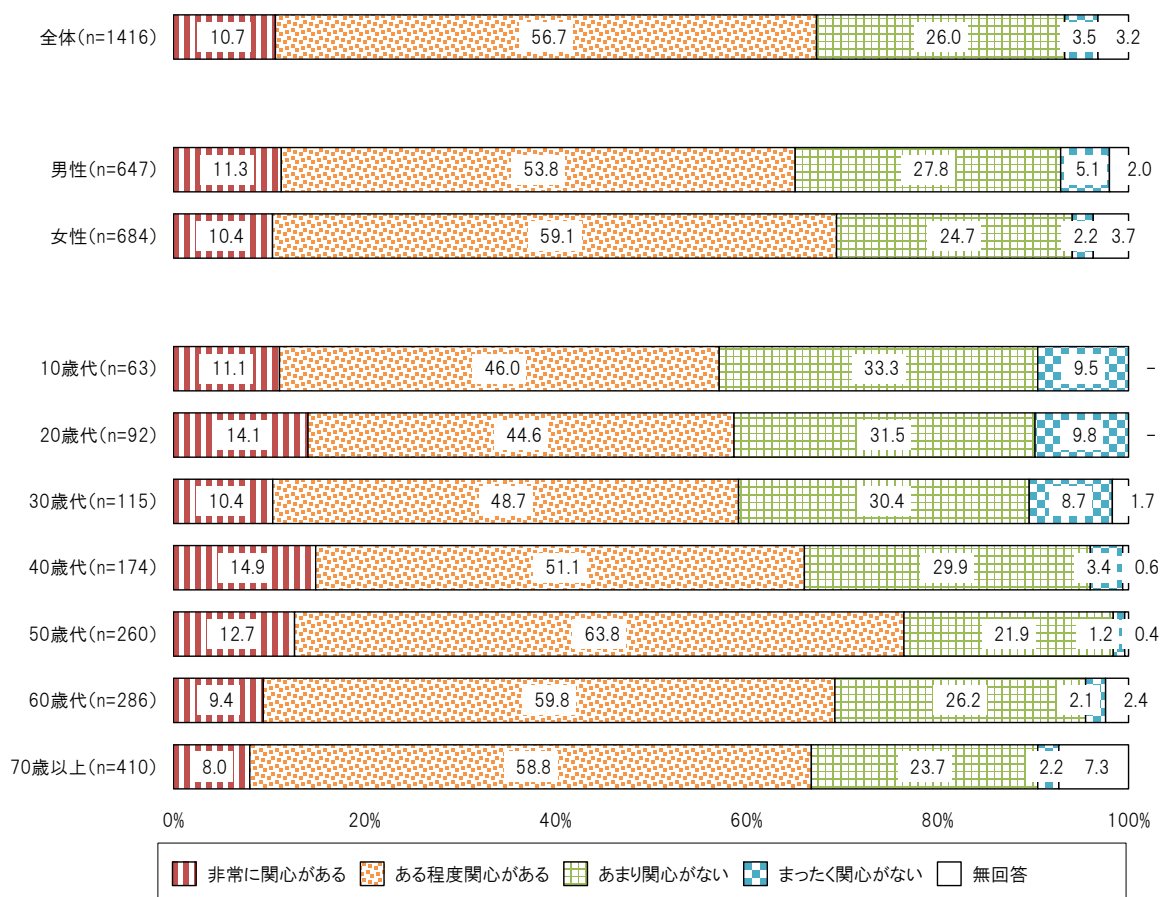
障がいのある人などの地域生活について

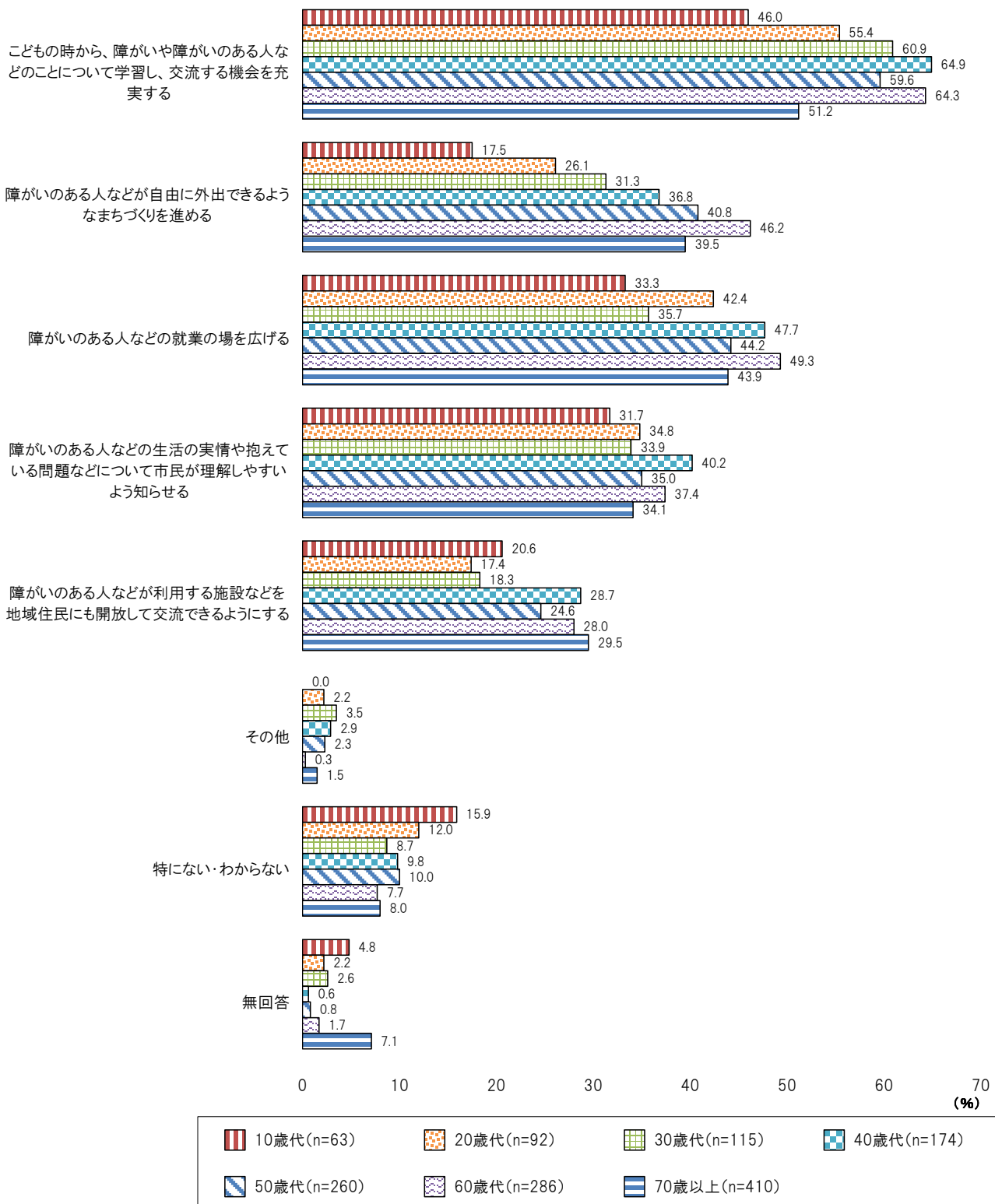
問 65 障がいのある人などが抱えている問題について、関心がありますか。(○は1つだけ)

全体では「ある程度関心がある」が 56.7%で最も高く、ついで「あまり関心がない」が 26.0%、「非常に関心がある」が 10.7%となっている。

性別にみると、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」の合計の割合は、男性が 65.1%女性が 69.5%であり、女性の方が 4.4 ポイント高くなっている。

年代別にみると、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」の合計の割合は、50 歳代で最も高く 76.5%であり、10 歳代で最も低く 57.1%であった。同割合について、10 歳代、20 歳代、30 歳代が5割台、40 歳代、60 歳代、70 歳以上が6割台、50 歳代が7割台となっている。





問 65 で「1. 非常に関心がある」「2. ある程度関心がある」と答えた方におききします

問 66 関心を持つようになった理由は何ですか。(○はいくつでも)

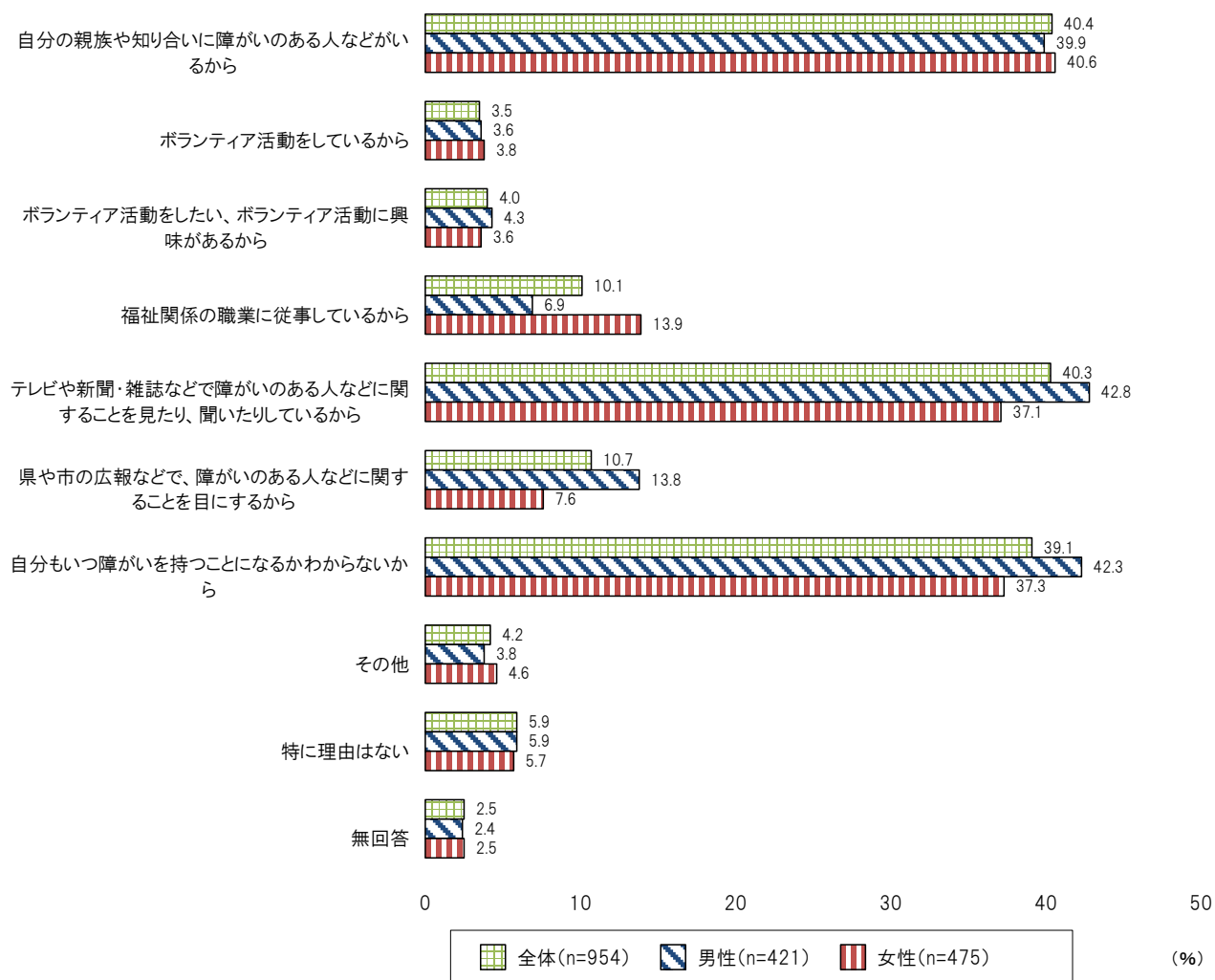
「自分の親族や知り合いに障がいのある人などがいるから」が 40.4%で最も高く、ついで「テレビや新聞・雑誌などで障がいのある人などに関することを見たり、聞いたりしているから」が 40.3%、「自分もいつ障がいを持つことになるかわからないから」が 39.1%となっている。

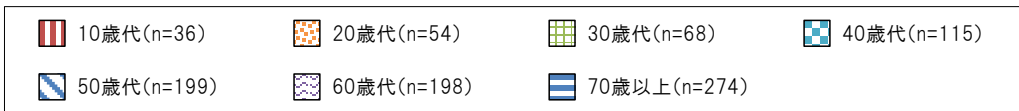
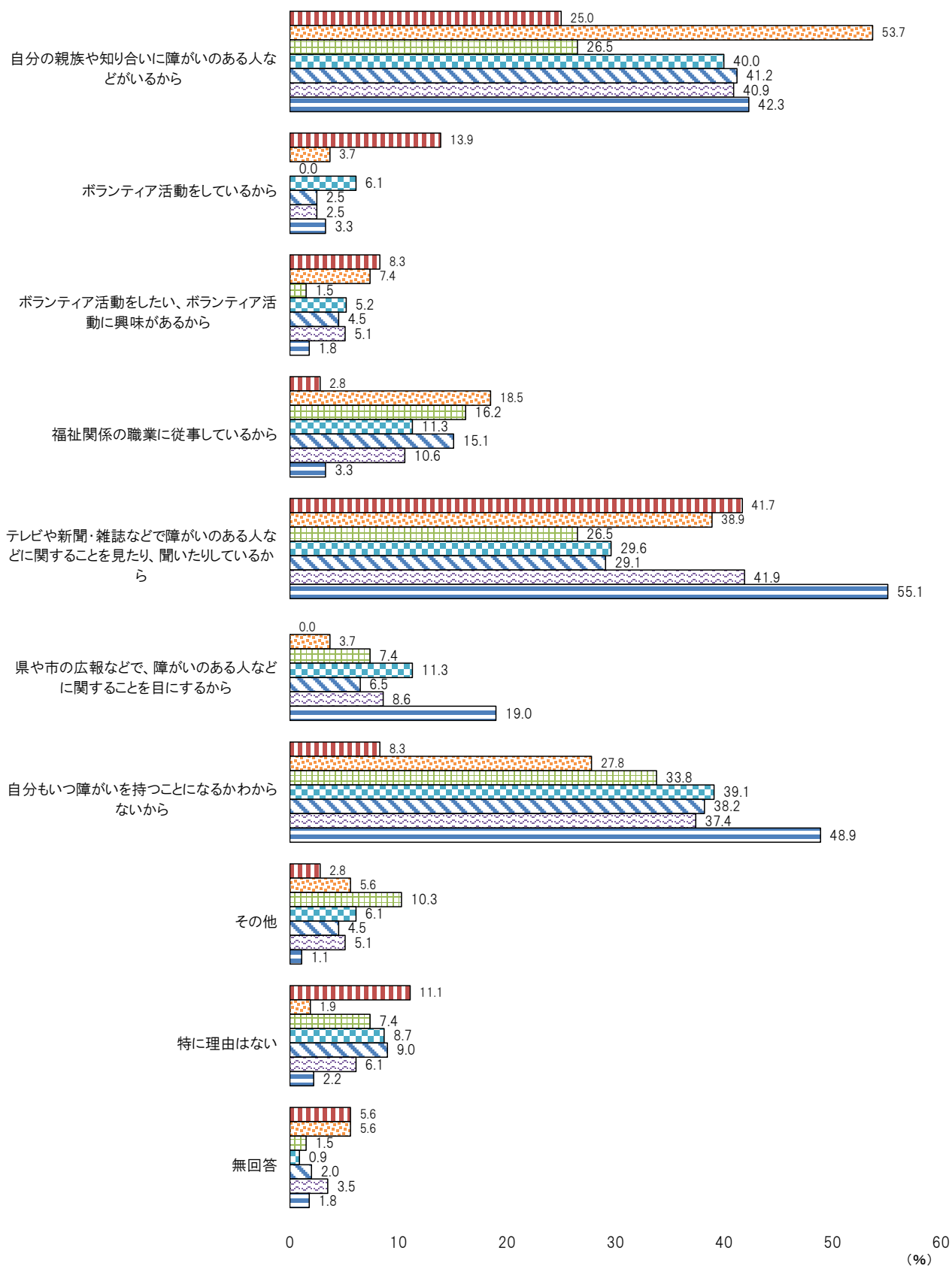
性別にみると、上位3位に入っている項目は全体と同じであった。

年代別にみると、1番目の項目は、20 歳代、40 歳代、50 歳代は「自分の親族や知り合いに障がいのある人などがいるから」、10 歳代、60 歳代、70 歳以上は「テレビや新聞・雑誌などで障がいのある人などに関することを見たり、聞いたりしているから」、30 歳代は「自分もいつ障がいを持つことになるかわからないから」となっている。全体の上位3項目以外で入ってきている項目は、10 歳代の「ボランティア活動をしているから」となっている。

<上位3項目>

		1番目		2番目		3番目	
全体		自分の親族や知り合いに障がいのある人などがいるから	40.4%	テレビや新聞・雑誌などで障がいのある人などに関することを見たり、聞いたりしているから	40.3%	自分もいつ障がいを持つことになるかわからないから	39.1%
性別	男性	テレビや新聞・雑誌などで障がいのある人などに関することを見たり、聞いたりしているから	42.8%	自分もいつ障がいを持つことになるかわからないから	42.3%	自分の親族や知り合いに障がいのある人などがいるから	39.9%
	女性	自分の親族や知り合いに障がいのある人などがいるから	40.6%	自分もいつ障がいを持つことになるかわからないから	37.3%	テレビや新聞・雑誌などで障がいのある人などに関することを見たり、聞いたりしているから	37.1%
年代別	10 歳代	テレビや新聞・雑誌などで障がいのある人などに関することを見たり、聞いたりしているから	41.7%	自分の親族や知り合いに障がいのある人などがいるから	25.0%	ボランティア活動をしているから	13.9%
	20 歳代	自分の親族や知り合いに障がいのある人などがいるから	53.7%	テレビや新聞・雑誌などで障がいのある人などに関することを見たり、聞いたりしているから	38.9%	自分もいつ障がいを持つことになるかわからないから	27.8%
	30 歳代	自分もいつ障がいを持つことになるかわからないから	33.8%	自分の親族や知り合いに障がいのある人などがいるから	26.5%	テレビや新聞・雑誌などで障がいのある人などに関することを見たり、聞いたりしているから	26.5%
	40 歳代	自分の親族や知り合いに障がいのある人などがいるから	40.0%	自分もいつ障がいを持つことになるかわからないから	39.1%	テレビや新聞・雑誌などで障がいのある人などに関することを見たり、聞いたりしているから	29.6%
	50 歳代	自分の親族や知り合いに障がいのある人などがいるから	41.2%	自分もいつ障がいを持つことになるかわからないから	38.2%	テレビや新聞・雑誌などで障がいのある人などに関することを見たり、聞いたりしているから	29.1%
	60 歳代	テレビや新聞・雑誌などで障がいのある人などに関することを見たり、聞いたりしているから	41.9%	自分の親族や知り合いに障がいのある人などがいるから	40.9%	自分もいつ障がいを持つことになるかわからないから	37.4%
	70 歳以上	テレビや新聞・雑誌などで障がいのある人などに関することを見たり、聞いたりしているから	55.1%	自分もいつ障がいを持つことになるかわからないから	48.9%	自分の親族や知り合いに障がいのある人などがいるから	42.3%





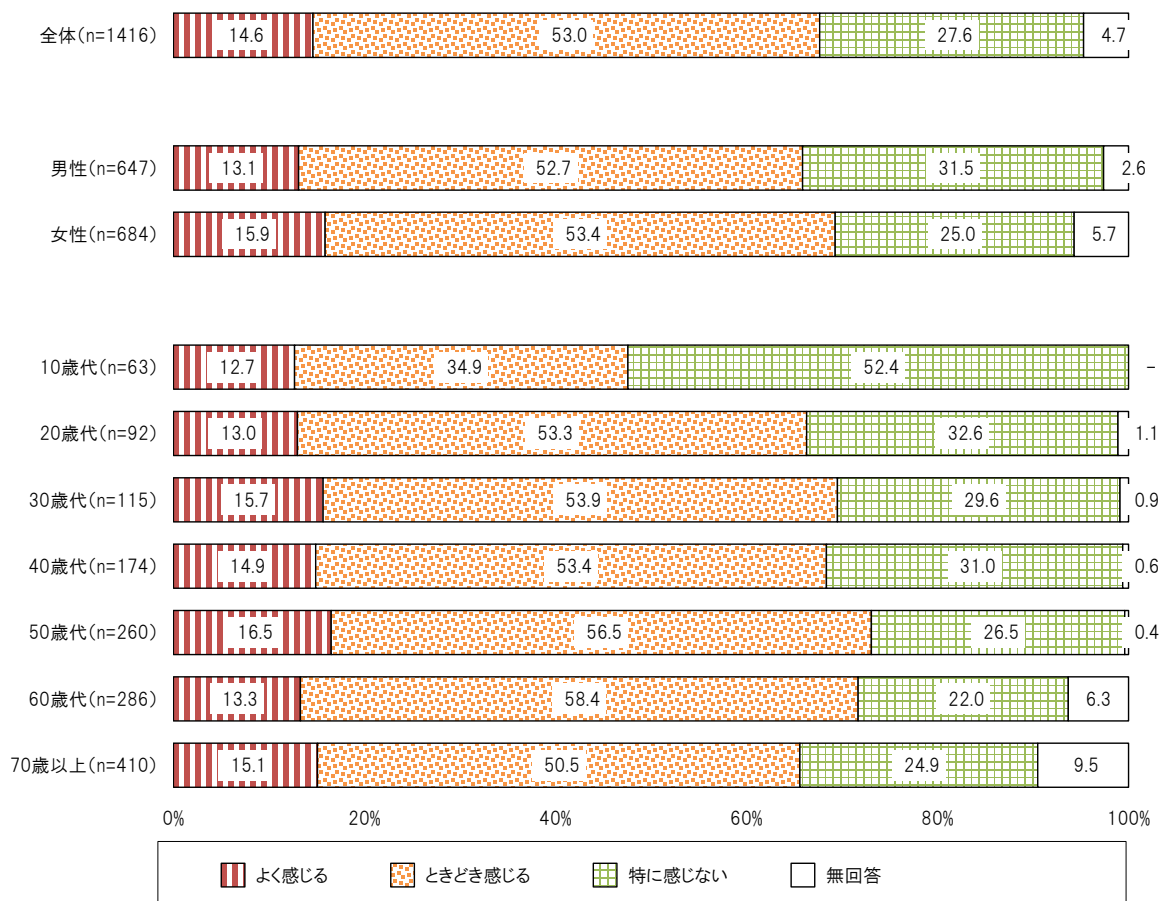
障がいのある人などにやさしいまちづくりについて

問 67 日常生活の中で、バリアフリーが進んでいないと感じることはありますか。(〇は1つだけ)

全体では「ときどき感じる」が53.0%で最も高く、ついで「特に感じない」が27.6%、「よく感じる」が14.6%となっている。

性別にみると、「よく感じる」と「ときどき感じる」の合計の割合は、男性が65.8%、女性が69.3%であり、女性の方が3.5ポイント高くなっている。

年代別にみると、「よく感じる」と「ときどき感じる」の合計の割合は、50歳代で最も高く73.0%であり、10歳代で最も低く47.6%であった。同割合について、50歳代、60歳代が比較的高くっており、10歳代が比較的低くなっている。



問 67 で「1. よく感じる」「2. ときどき感じる」と答えた方におきします

問 68 どんなところで感じますか。(○はいくつでも)

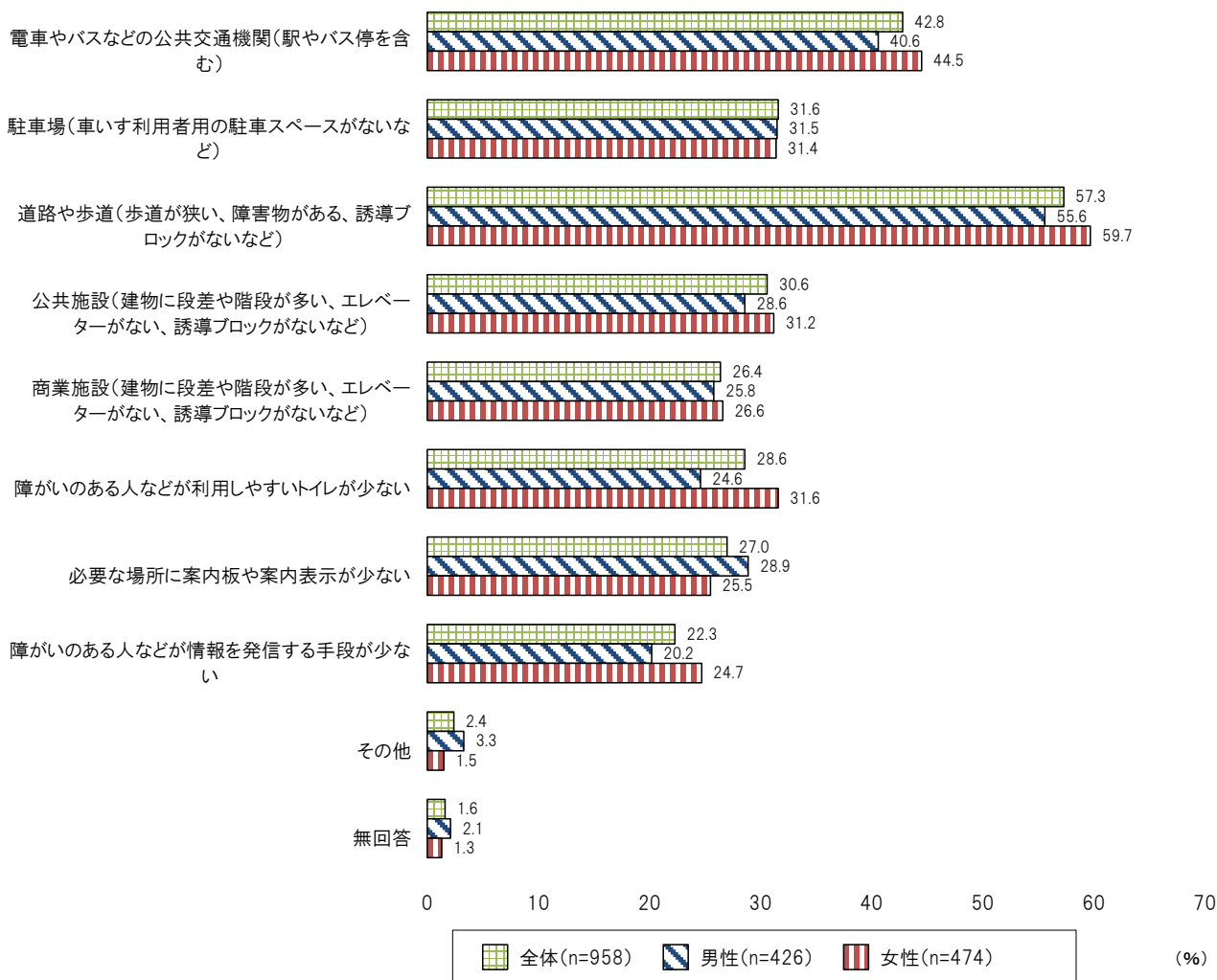
「道路や歩道(歩道が狭い、障害物がある、誘導ブロックがないなど)」が 57.3%で最も高く、ついで「電車やバスなどの公共交通機関(駅やバス停を含む)」が 42.8%、「駐車場(車いす利用者用の駐車スペースがないなど)」が 31.6%となっている。

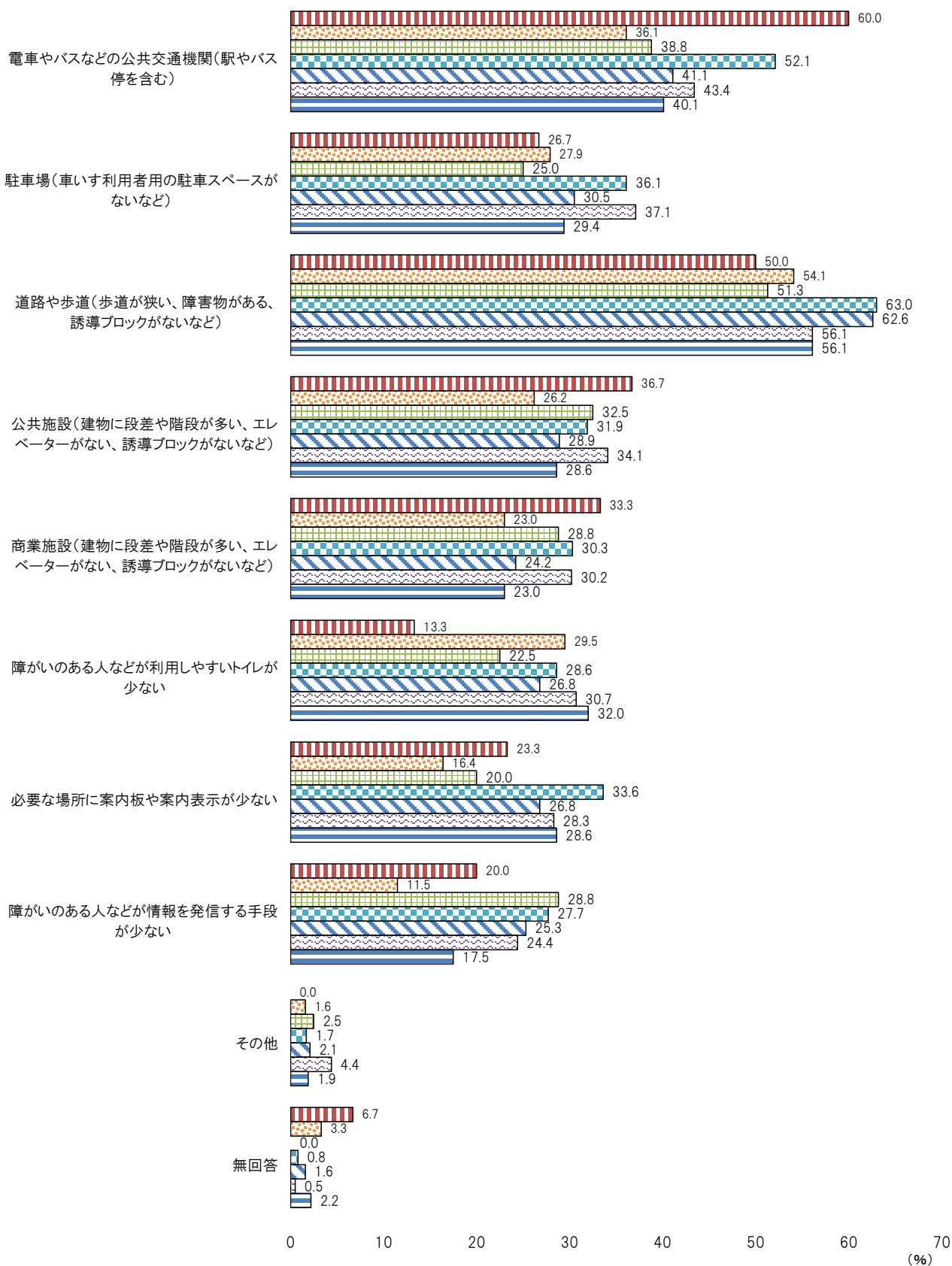
性別にみると、男性の1番目、2番目、3番目に高い項目は全体と同じであった。女性は3番目に「障がいのある人などが利用しやすいトイレが少ない」が入ってきている。

年代別にみると、1番目の項目は、10 歳代以外は「道路や歩道(歩道が狭い、障害物がある、誘導ブロックがないなど)」であり、10 歳代では「電車やバスなどの公共交通機関(駅やバス停を含む)」となっている。全体の上位3項目以外で入ってきている項目は、10 歳代、30 歳代の「公共施設(建物に段差や階段が多い、エレベーターがない、誘導ブロックがないなど)」、20 歳代、70 歳以上の「障がいのある人などが利用しやすいトイレが少ない」となっている。

<上位3項目>

		1番目		2番目		3番目	
全体		道路や歩道(歩道が狭い、障害物がある、誘導ブロックがないなど)	57.3%	電車やバスなどの公共交通機関(駅やバス停を含む)	42.8%	駐車場(車いす利用者用の駐車スペースがないなど)	31.6%
性別	男性	道路や歩道(歩道が狭い、障害物がある、誘導ブロックがないなど)	55.6%	電車やバスなどの公共交通機関(駅やバス停を含む)	40.6%	駐車場(車いす利用者用の駐車スペースがないなど)	31.5%
	女性	道路や歩道(歩道が狭い、障害物がある、誘導ブロックがないなど)	59.7%	電車やバスなどの公共交通機関(駅やバス停を含む)	44.5%	障がいのある人などが利用しやすいトイレが少ない	31.6%
年代別	10 歳代	電車やバスなどの公共交通機関(駅やバス停を含む)	60.0%	道路や歩道(歩道が狭い、障害物がある、誘導ブロックがないなど)	50.0%	公共施設(建物に段差や階段が多い、エレベーターがない、誘導ブロックがないなど)	36.7%
	20 歳代	道路や歩道(歩道が狭い、障害物がある、誘導ブロックがないなど)	54.1%	電車やバスなどの公共交通機関(駅やバス停を含む)	36.1%	障がいのある人などが利用しやすいトイレが少ない	29.5%
	30 歳代	道路や歩道(歩道が狭い、障害物がある、誘導ブロックがないなど)	51.3%	電車やバスなどの公共交通機関(駅やバス停を含む)	38.8%	公共施設(建物に段差や階段が多い、エレベーターがない、誘導ブロックがないなど)	32.5%
	40 歳代	道路や歩道(歩道が狭い、障害物がある、誘導ブロックがないなど)	63.0%	電車やバスなどの公共交通機関(駅やバス停を含む)	52.1%	駐車場(車いす利用者用の駐車スペースがないなど)	36.1%
	50 歳代	道路や歩道(歩道が狭い、障害物がある、誘導ブロックがないなど)	62.6%	電車やバスなどの公共交通機関(駅やバス停を含む)	41.1%	駐車場(車いす利用者用の駐車スペースがないなど)	30.5%
	60 歳代	道路や歩道(歩道が狭い、障害物がある、誘導ブロックがないなど)	56.1%	電車やバスなどの公共交通機関(駅やバス停を含む)	43.4%	駐車場(車いす利用者用の駐車スペースがないなど)	37.1%
	70 歳以上	道路や歩道(歩道が狭い、障害物がある、誘導ブロックがないなど)	56.1%	電車やバスなどの公共交通機関(駅やバス停を含む)	40.1%	障がいのある人などが利用しやすいトイレが少ない	32.0%





問 69 障がいのある人などが、地域の行事や活動により参加しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

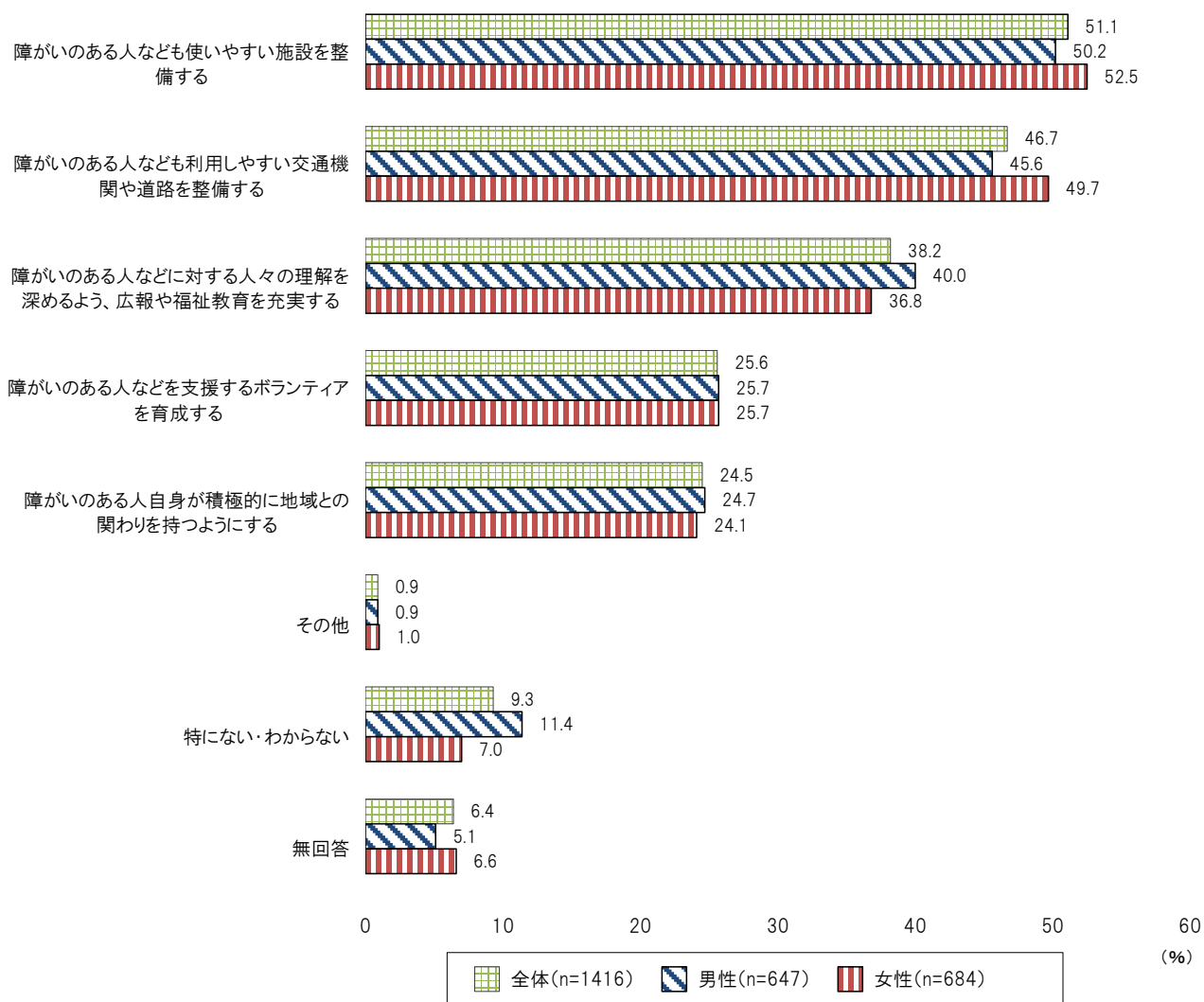
「障がいのある人なども使いやすい施設を整備する」が 51.1%で最も高く、ついで「障がいのある人なども利用しやすい交通機関や道路を整備する」が 46.7%、「障がいのある人などに対する人々の理解を深めるよう、広報や福祉教育を充実する」が 38.2%となっている。

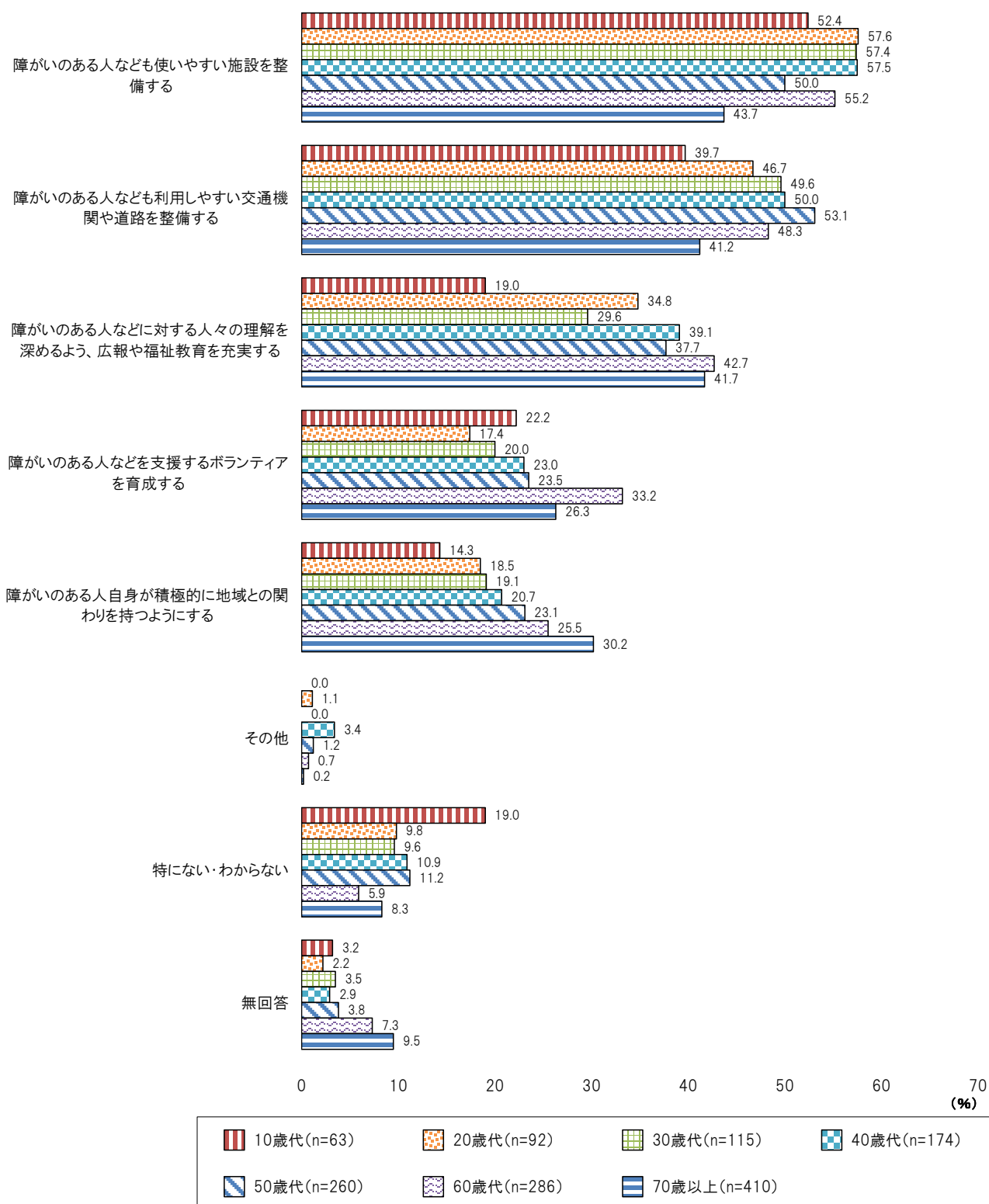
性別にみると、1番目、2番目、3番目に高い項目は男女とも全体と同じであった。

年代別にみると、1番目の項目は、50 歳代以外は「障がいのある人なども使いやすい施設を整備する」であり、50 歳代は「障がいのある人なども利用しやすい交通機関や道路を整備する」であった。全体の上位3項目以外で入ってきているのは、10 歳代の「障がいのある人などを支援するボランティアを育成する」となっている。

<上位3項目>

		1番目		2番目		3番目	
全体		障がいのある人なども使いやすい施設を整備する	51.1%	障がいのある人なども利用しやすい交通機関や道路を整備する	46.7%	障がいのある人などに対する人々の理解を深めるよう、広報や福祉教育を充実する	38.2%
性別	男性	障がいのある人なども使いやすい施設を整備する	50.2%	障がいのある人なども利用しやすい交通機関や道路を整備する	45.6%	障がいのある人などに対する人々の理解を深めるよう、広報や福祉教育を充実する	40.0%
	女性	障がいのある人なども使いやすい施設を整備する	52.5%	障がいのある人なども利用しやすい交通機関や道路を整備する	49.7%	障がいのある人などに対する人々の理解を深めるよう、広報や福祉教育を充実する	36.8%
年代別	10 歳代	障がいのある人なども使いやすい施設を整備する	52.4%	障がいのある人なども利用しやすい交通機関や道路を整備する	39.7%	障がいのある人などを支援するボランティアを育成する	22.2%
	20 歳代	障がいのある人なども使いやすい施設を整備する	57.6%	障がいのある人なども利用しやすい交通機関や道路を整備する	46.7%	障がいのある人などに対する人々の理解を深めるよう、広報や福祉教育を充実する	34.8%
	30 歳代	障がいのある人なども使いやすい施設を整備する	57.4%	障がいのある人なども利用しやすい交通機関や道路を整備する	49.6%	障がいのある人などに対する人々の理解を深めるよう、広報や福祉教育を充実する	29.6%
	40 歳代	障がいのある人なども使いやすい施設を整備する	57.5%	障がいのある人なども利用しやすい交通機関や道路を整備する	50.0%	障がいのある人などに対する人々の理解を深めるよう、広報や福祉教育を充実する	39.1%
	50 歳代	障がいのある人なども利用しやすい交通機関や道路を整備する	53.1%	障がいのある人なども使いやすい施設を整備する	50.0%	障がいのある人などに対する人々の理解を深めるよう、広報や福祉教育を充実する	37.7%
	60 歳代	障がいのある人なども使いやすい施設を整備する	55.2%	障がいのある人なども利用しやすい交通機関や道路を整備する	48.3%	障がいのある人などに対する人々の理解を深めるよう、広報や福祉教育を充実する	42.7%
	70 歳以上	障がいのある人なども使いやすい施設を整備する	43.7%	障がいのある人などに対する人々の理解を深めるよう、広報や福祉教育を充実する	41.7%	障がいのある人なども利用しやすい交通機関や道路を整備する	41.2%





災害対策について

問 70 障がいのある人などのために、災害対策として、市はどのようなことに力を入れる必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

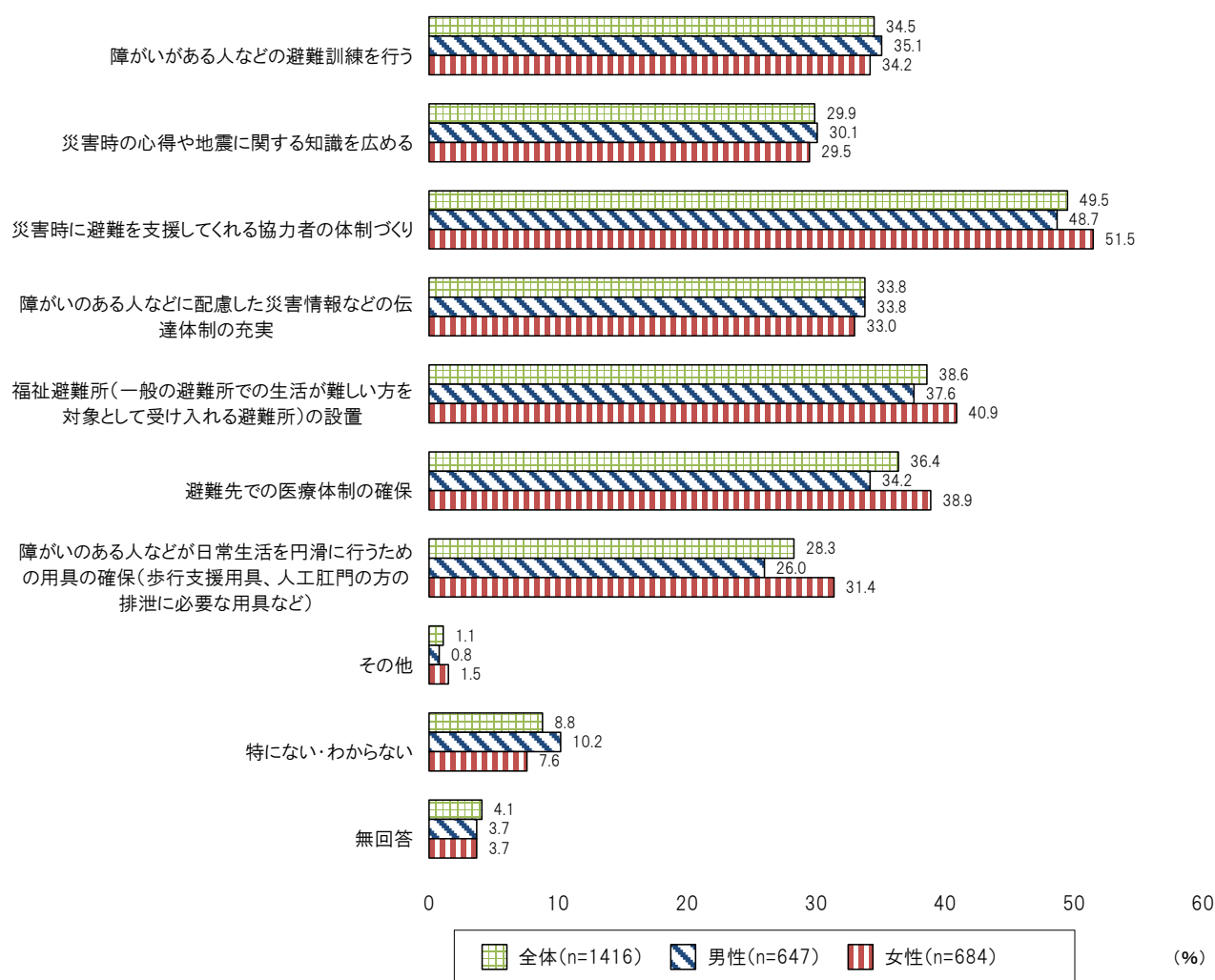
「災害時に避難を支援してくれる協力者の体制づくり」が 49.5%で最も高く、ついで「福祉避難所(一般の避難所での生活が難しい方を対象として受け入れる避難所)の設置」が 38.6%、「避難先での医療体制の確保」が 36.4%となっている。

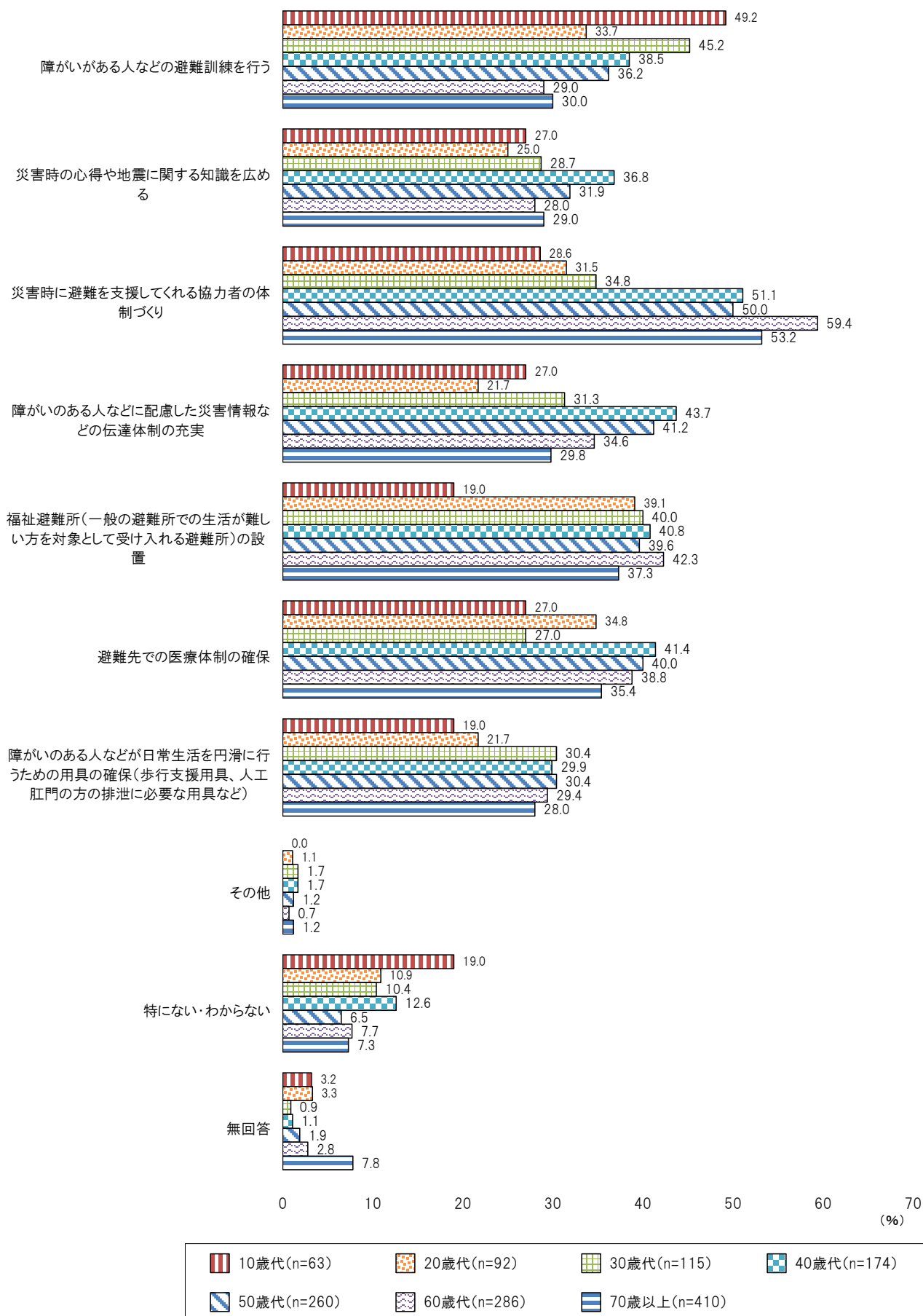
性別にみると、女性は1番目、2番目、3番目に高い項目は全体と同じであった。男性は3番目に「障がいがある人などの避難訓練を行う」が入ってきている。

年代別にみると、1番目の項目は、40 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上は「災害時に避難を支援してくれる協力者の体制づくり」、10 歳代、30 歳代は「障がいがある人などの避難訓練を行う」、20 歳代は「福祉避難所(一般の避難所での生活が難しい方を対象として受け入れる避難所)の設置」となっている。

<上位3項目>

		1番目		2番目		3番目	
全体		災害時に避難を支援してくれる協力者の体制づくり	49.5%	福祉避難所(一般の避難所での生活が難しい方を対象として受け入れる避難所)の設置	38.6%	避難先での医療体制の確保	36.4%
性別	男性	災害時に避難を支援してくれる協力者の体制づくり	48.7%	福祉避難所の設置	37.6%	障がいがある人などの避難訓練を行う	35.1%
	女性	災害時に避難を支援してくれる協力者の体制づくり	51.5%	福祉避難所の設置	40.9%	避難先での医療体制の確保	38.9%
年代別	10 歳代	障がいがある人などの避難訓練を行う	49.2%	災害時に避難を支援してくれる協力者の体制づくり	28.6%	災害時の心得や地震に関する知識を広める 障がいのある人などに配慮した災害情報などの伝達体制の充実 避難先での医療体制の確保	27.0%
	20 歳代	福祉避難所の設置	39.1%	避難先での医療体制の確保	34.8%	障がいがある人などの避難訓練を行う	33.7%
	30 歳代	障がいがある人などの避難訓練を行う	45.2%	福祉避難所の設置	40.0%	災害時に避難を支援してくれる協力者の体制づくり	34.8%
	40 歳代	災害時に避難を支援してくれる協力者の体制づくり	51.1%	障がいのある人などに配慮した災害情報などの伝達体制の充実	43.7%	避難先での医療体制の確保	41.4%
	50 歳代	災害時に避難を支援してくれる協力者の体制づくり	50.0%	障がいのある人などに配慮した災害情報などの伝達体制の充実	41.2%	避難先での医療体制の確保	40.0%
	60 歳代	災害時に避難を支援してくれる協力者の体制づくり	59.4%	福祉避難所の設置	42.3%	避難先での医療体制の確保	38.8%
	70 歳以上	災害時に避難を支援してくれる協力者の体制づくり	53.2%	福祉避難所の設置	37.3%	避難先での医療体制の確保	35.4%





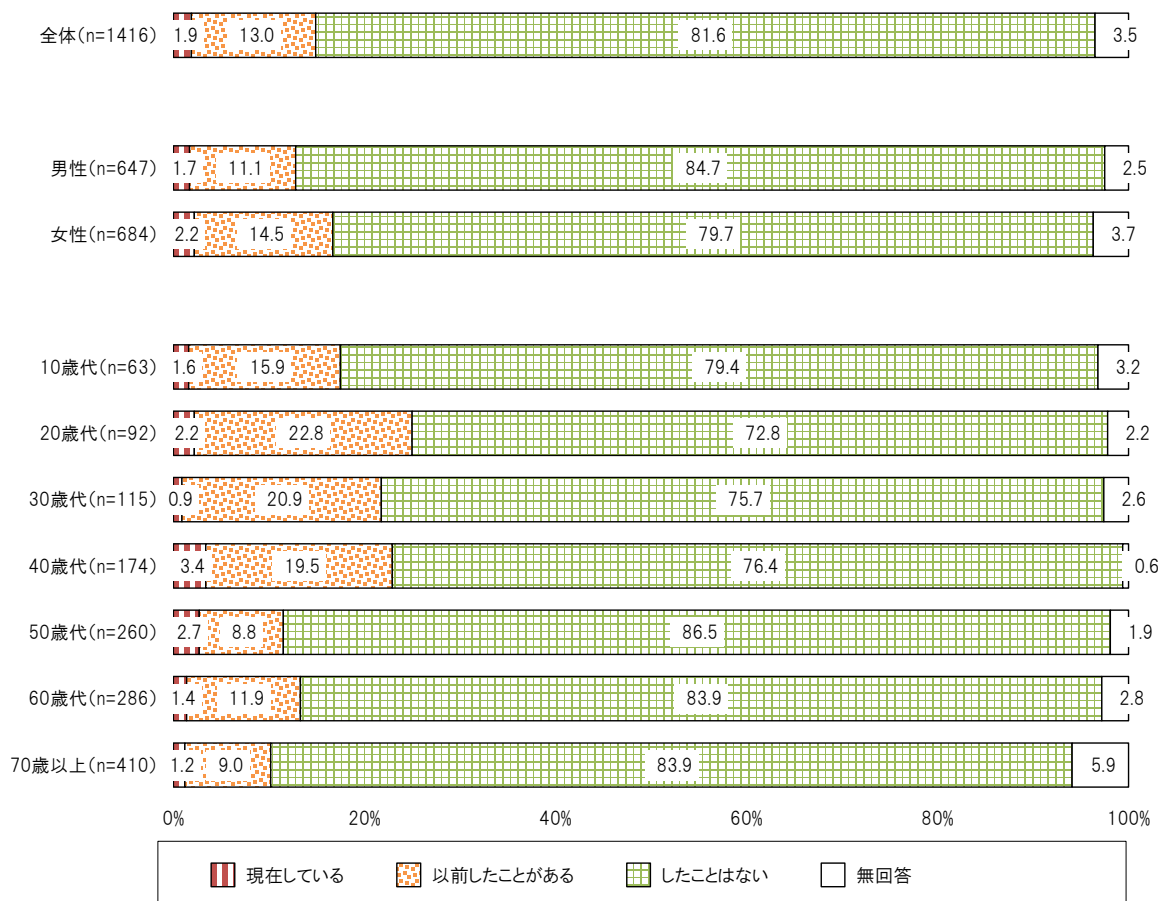
ボランティア活動などについて

問 71 障がいのある人などを対象としたボランティア活動の経験はありますか。(○は1つだけ)

全体では「したことはない」が 81.6%で最も高く、ついで「以前したことがある」が 13.0%、「現在している」が 1.9%となっている。

性別にみると、「現在している」と「以前したことがある」の合計の割合は、男性が 12.8%、女性が 16.7%であり、女性の方が 3.9 ポイント高くなっている。

年代別にみると、「現在している」と「以前したことがある」の合計の割合は、20 歳代が最も高く 25.0%であり、70 歳以上が最も低く 10.2%となっている。同割合について、10 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上が1割台、20 歳代、30 歳代、40 歳代が2割台となっている。



問 72 あなたは、障がいのある人などに対して、どのような支援ができますか。(○はいくつでも)

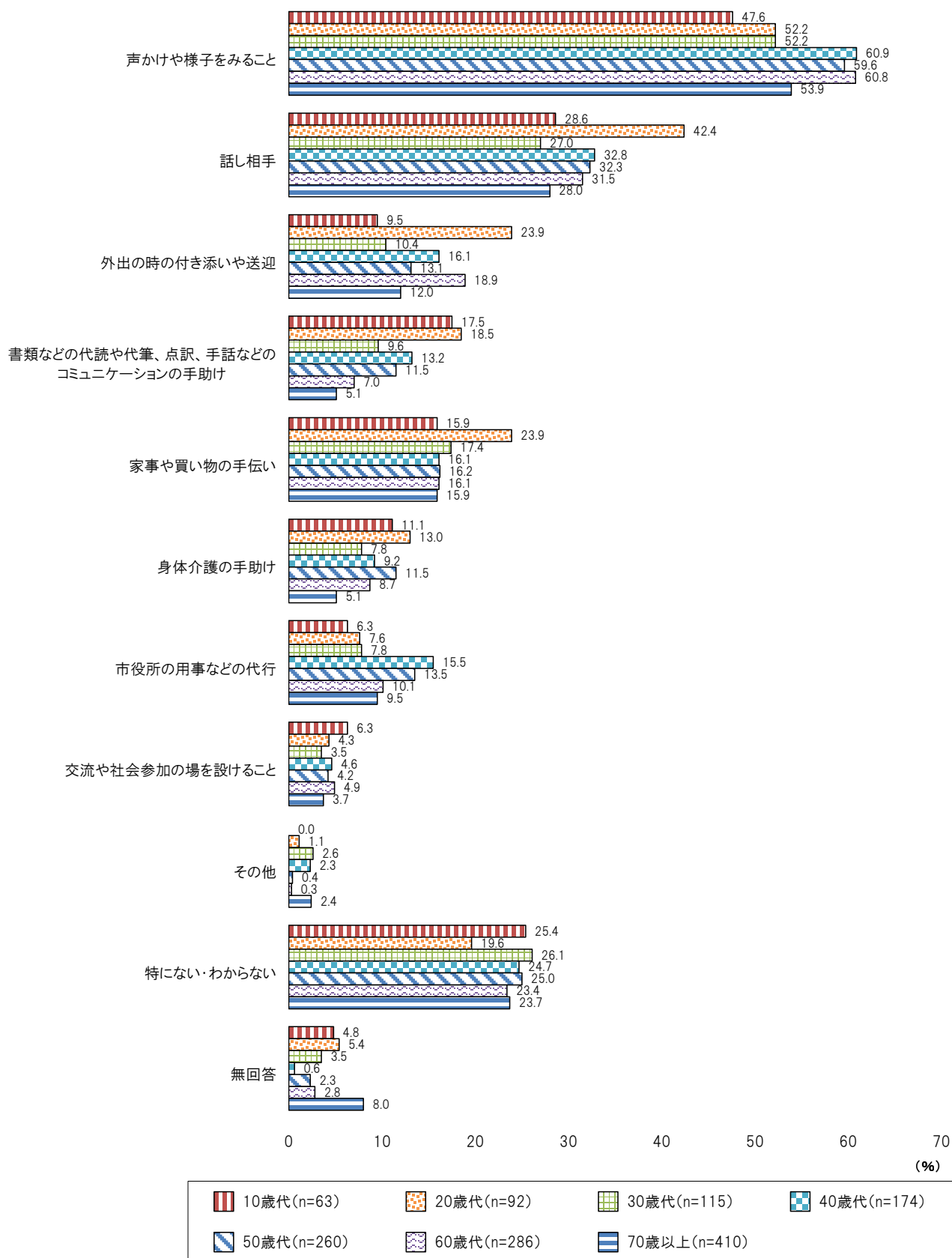
「声かけや様子を見ること」が 56.6%で最も高く、ついで「話し相手」が 31.0%、「特にない・わからない」が 23.9%となっている。

性別にみると、1番目、2番目、3番目に高い項目は男女とも全体と同じであった。

年代別にみると、1番目、2番目の項目は同じであった。全体の上位3項目以外で入ってきているのは、20 歳代の「外出の時の付き添いや送迎」、20 歳代の「家事や買い物の手伝い」となっている。

<上位3項目>

		1番目		2番目		3番目	
全体		声かけや様子を見ること	56.6%	話し相手	31.0%	特にない・わからない	23.9%
性別	男性	声かけや様子を見ること	52.7%	話し相手	28.7%	特にない・わからない	28.3%
	女性	声かけや様子を見ること	61.3%	話し相手	33.2%	特にない・わからない	19.7%
年代別	10 歳代	声かけや様子を見ること	47.6%	話し相手	28.6%	特にない・わからない	25.4%
	20 歳代	声かけや様子を見ること	52.2%	話し相手	42.4%	外出の時の付き添いや送迎 家事や買い物の手伝い	23.9%
	30 歳代	声かけや様子を見ること	52.2%	話し相手	27.0%	特にない・わからない	26.1%
	40 歳代	声かけや様子を見ること	60.9%	話し相手	32.8%	特にない・わからない	24.7%
	50 歳代	声かけや様子を見ること	59.6%	話し相手	32.3%	特にない・わからない	25.0%
	60 歳代	声かけや様子を見ること	60.8%	話し相手	31.5%	特にない・わからない	23.4%
	70 歳以上	声かけや様子を見ること	53.9%	話し相手	28.0%	特にない・わからない	23.7%



市の取組について

問 73 障がいのある人もない人も、ともに住みやすいまちをつくるための施策について、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「障がいのある人などへの理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実」が 38.9%で最も高く、ついで「高齢者、障がいのある人、児童の施設サービスの充実」が 37.9%、「自宅での生活を支援する在宅サービスの充実」が 35.9%となっている。

性別にみると、男性は1番目、2番目、3番目に高い項目は全体と同じであった。女性は1番目と2番目の順番が入れ替わっていた。

年代別にみると、1番目の項目は、50 歳代と 70 歳以上以外では「障がいのある人などへの理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実」であり、50 歳代と 70 歳以上は「高齢者、障がいのある人、児童の施設サービスの充実」となっている。全体の上位3項目以外で入ってきているのは、10 歳代、30 歳代の「道路の段差解消などの、バリアフリー化の推進」、20 歳代、40 歳代の「交通の利便性の確保」、50 歳代、60 歳代、70 歳以上の「介護の必要な重度の障がいのある人などのための入所施設の整備」となっている。

<上位3項目>

		1番目		2番目		3番目	
全体		障がいのある人などへの理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実	38.9%	高齢者、障がいのある人、児童の施設サービスの充実	37.9%	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実	35.9%
性別	男性	障がいのある人などへの理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実	38.2%	高齢者、障がいのある人、児童の施設サービスの充実	36.0%	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実	35.5%
	女性	高齢者、障がいのある人、児童の施設サービスの充実	40.9%	障がいのある人などへの理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実	39.5%	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実	36.3%
年代別	10 歳代	障がいのある人などへの理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実	39.7%	高齢者、障がいのある人、児童の施設サービスの充実	27.0%	道路の段差解消などの、バリアフリー化の推進	22.2%
	20 歳代	障がいのある人などへの理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実	31.5%	交通の利便性の確保	31.5%	高齢者、障がいのある人、児童の施設サービスの充実	28.3%
	30 歳代	障がいのある人などへの理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実	39.1%	道路の段差解消などの、バリアフリー化の推進	34.8%	高齢者、障がいのある人、児童の施設サービスの充実	33.9%
	40 歳代	障がいのある人などへの理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実	43.7%	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実	40.8%	交通の利便性の確保	36.2%
	50 歳代	高齢者、障がいのある人、児童の施設サービスの充実	42.7%	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実	39.6%	障がいのある人などへの理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実 介護の必要な重度の障がいのある人などのための入所施設の整備	38.5%
	60 歳代	障がいのある人などへの理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実	41.6%	高齢者、障がいのある人、児童の施設サービスの充実	41.3%	介護の必要な重度の障がいのある人などのための入所施設の整備	39.9%
	70 歳以上	高齢者、障がいのある人、児童の施設サービスの充実	39.5%	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実	38.5%	介護の必要な重度の障がいのある人などのための入所施設の整備	38.3%

